

2024. 11. 24 鉄棒を自由に楽しみ、好きになる

最近年長さんでは鉄棒遊びが盛り上がっています。

10月終わりに鉄棒に座りながら（本園では鉄棒に座る技は王様座りと子供たちの間で呼ばれてます）、アルプス一万尺をしていた女の子が「これは『王様座りアルプス』って技だよ！」と名付けた時から鉄棒への関わり方が変化してきました。

その技をみんなの時間で紹介します。「私もやってみたい！」という子供たちが出てきます。この「王様座りアルプス」は、まず鉄棒の上に座ることが難しい上に、手を放し、しかも手を動かすことで体幹がぶれていきます。その上で自分なりにバランスを取りながら、曲に合わせて動かしていく。ものすごい技です。教師がこの王様座りアルプスのすごさを熱く語る姿を見て、子供たちの中で、「こういう技もありなんだ！」という空気感が少し芽生えてきます。

次の日、鉄棒を出しておく、「先生！こんな技を考えたよ！これは『てつぼうおいのり』！」と鉄棒に足を引っかけながらお祈りポーズをとるY男。「これは『こうもりバイバイ』」とコウモリふりのポーズで手を振ります。さらには、「こっちはスーパーマン！」「これは『かぼちゃ』だよ！」と女の子たちも新たな技を編み出していきます。子供たちの自由な発想に教師もわくわくが止まりません。

その次の日、新たに生まれた技を印刷し、カード状にしました。そして子供たちはそれに自分で技名を書いて、磁石をつけホワイトボードに貼っていきます。カードを貼っていく子供たちの姿はなにか嬉しそう。自分の技が公式技に認定されたような感覚でしょうか。それと同時に鉄棒頑張りカードを出し、どんな技でも挑戦したらシールを貼っていくカードを用意しました。子供たちは自由に技に挑戦し、シールを増やして楽しんでいきます。

11月になり、T男が鉄棒のところに立っています。そして子供たちが鉄棒で遊んでいるところをじっと見ています。教師が知る限り、今年度になってT男は初めて鉄棒のところに来たと思います。でも一歩がなかなか出ません。T男は発想力も豊かで工作は得意ですが、運動系の遊びは少し苦手意識があります。教師は「先生が支えるから一緒にやってみよう」と誘い、比較的やりやすいこうもりの技に挑戦してみます。でも足が鉄棒から外れそうな感覚があるのか、「やっぱやめとく」と言って鉄棒から離れます。教師も誘い方を失敗したかな…と反省しつつ様子を見ることにします。すると、どうもT男は王様ずわりがしたい様子。でも王様座りはとても難しい技です。すると、鉄棒遊びをしていたY男が「王様座り、教えてあげるよ！」と手とり足取り教え始めます。「足を引っかけておくと怖くないよ！」とY男。T男は何回も練習します。そしてついに王様座りができます。Y男と一緒に二人で鉄棒に座り嬉しそうでした。

次の日、「てつぼうめいじんボード」を用意しました。今までたまった技カードを子供たちで相談しながらレベルごとに分けていきます。「スーパーマンはレベル4かな？こうもりバレエは私まだできんで、レベル5じゃない？」「こうもりふりはきつとみんなできるよ！レベル1！」「連続さかあがりはめっちゃ難しいで、レベル7！」などいろいろな会話がまた面白いです！そのボードを見て、T男が「『かぼちゃ』やってみようかな？」とつぶやきます。でも挑戦しましたが、ちょっとが難しい。「これはまだできんわ！じゃあ、『つばめはしる』はレベル1やでできそう！」と違う技をやってみます。すると見事にでき、「できた！」と嬉しそうに名人ボードに自分の名前を書いたテープを貼っていきます。

休み明けの月曜日、朝からT男は鉄棒で遊びます。すると「先生、こんな技を考えたよ！」とニコニコ顔で言いに来ます。「これは『てつぼうバイク』！」とT男。ぶたのまるやきの逆さバージョンができないかと考えているうちに、なんとなくバランスがとれ、落ち着いた形が『てつぼうバイク』。さっそくカードにし、技認定です。

「これはレベル何かなー?」「うでくみこうもり③よりはちょっと簡単やでなー、レベル2ぐらいかな?」とT男。すると、そのカードの横にレベルを書こうとします。しかし、「れべる」の「れ」が難しい。すると、T男はとなりのボードの「れべる」と書いてある文字をじっと見ると、何回も見たり、書いたりを繰り返しながら、「れべる②」と自分で書きました。「てつぼうバイク」をみんなの時間でも披露するT男。それをやりたいという子に丁寧にやりかたを教えます。「手は鉄棒を握りながら、ブンブンて動かすのがポイントだよ!」とさらにイメージから動きをつけ足しています。

その次の日、遊戯室で名人ボードをみた年少さんが、てつぼうバイクに興味を持ちます。そして、やろうとすると、T男がすぐに駆け付け、やり方をレクチャーします。「がんばれ!」と声を掛けます。そして技ができると手をあげて祝福するT男。その年少さんは、T男が作ったカードの下に、自分の名前を嬉しそうに貼りました。

そのような姿を保護者に伝えると、先日の親子で就学児健康診断で地元の小学校へ行った時、体育館の鉄棒を見て、「小学生になったらあんな鉄棒をするんだ!」とつぶやいていたとのこと。そして、そこでやってみたかったんだけど、時間の都合でできなかったT男。そこから園で鉄棒遊びを見つめる姿になり、友達の支えを受けながら鉄棒に触れていく姿につながっていきます。

そして、T男が鉄棒に夢中になるきっかけになったのは、子供たちが自由に鉄棒の技をつくり出し、名人ボードや頑張りカードを使いながら、自分たちなりの鉄棒遊びを創り出していく空気感があつたからではないでしょうか。自分なりの技を考える面白さ、技ができあがる楽しさ、それを周囲から認めてもらえる嬉しさ。鉄棒遊びの中にいろいろな感情がどんどん芽生えていきます。そのように心を動かしながら、鉄棒に親しむ。そして遊び込む中で鉄棒の特性、体の特性、重力、バランス、安全性…などいろいろなことに気付き、出会いと気付きを重ねながら、その子なりに鉄棒が好きになっていきます。

今も鉄棒遊びは盛り上がっていて、最近ではつくり出した技を、下に足をつかずに連続でしていく連続技、二人、三人でやる合体技などさらに広がりが見られています。一方T男は、鉄棒もしますが、そこからボールつきやあんながたどこさジャンプなどさらに運動遊びの幅を広げていっています。鉄棒で芽生えた自信を糧に、新たな世界の扉を彼なりにあけていっています。その広がり、新たな挑戦を教師の援助、環境を通してこれからも支えていきたいです。



